
ココロ

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ココロ

【コード】

N5108BA

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

自分の気持ちに気付いた。けれど

報われないと解っていても、どうしようもない気持ちがある。

家も隣で幼稚園から一緒だった幼なじみ、拓真。まるで兄妹のように育ったから、彼のことなら大抵分かる。それは拓真も同じことだろう。

そして高校から一緒になって、親友になった菜々美。ふわふわした雰囲気、ガサツな私と反対に女の子らしい子。それはまさに拓真の好みそのもので、2人が付き合い出すのはいわば必然的だとも思えた。

大切な友達2人が幸せになることは私にとっても喜ばしいこと。なのに何故、こんなにも胸が痛むんだろう？

「朱莉！ 帰ろう？」

「あ……うん」

拓真と付き合い始めた菜々美だけど、放課後になると必ず私を誘いに来る。私と拓真は同じクラスだけど、菜々美は隣のクラス。菜々美が来る前に立ち去ってしまいたいのに、何故か決まって彼女のクラスが先に終わってしまう。

チラリと拓真を見るけれど、ヤツは私と目が合うや否や視線を反らす。行くべきじゃないって思ってるのに、菜々美の笑顔に弱い私。はいつものように2人に付いて行くしかなかった。

前に並んで歩く2人を一步離れて追いかける。帰り道は地獄だ。楽しげに笑い合う2人を見ているだけで、激しい疎外感と焦燥感で泣きそうになる。

「ごめん！ 私、用事思い出した。じゃあ、また明日ね！」

精一杯の笑顔。2人の顔なんて見る余裕すらなく、私は踵を返すと脱兎のごとく走り去った。

走りながら溢れ出す涙を拭う。今まで我慢していたせいだろうか、止めたくても止まらない。すれ違う人が変な目で見ているけれど、構ってられなかった。

私はバカだ。今更、自分の気持ちに気付くなんて。

この気持ちに今更気付いたって、もうどうしようもないのに。あの2人がくっ付いて初めて、私は自分が拓真のことを好きだったことにやっと気が付いたんだ。

もう全てが遅いことは私が一番よく解ってる。解っているのにこの気持ちをそう易々と捨てられないのは何故だろう。

報われないと解っていても、どうしようもないこの気持ちはいたいどこへやったらいいんだろう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5108ba/>

ココロ

2012年1月14日01時46分発行